



「和と輪」をテーマにした比角ストリートフェス。二中生もいろいろな屋台を出した。市内四谷

# 地域と交流 楽しい!

## 比角地区 ストリートフェスに5700人

市内の比角地区コミュニティ運営協議会（多田哲雄会長）が21日、地区内の路上を歩行者天国にして、比角ストリートフェス・ティバルを盛り上げた。主管は同フェス・ティバル実行委員会。前日祭の21日は荒天だったものの、両日合わせ、地区内外の家族連れら約5700人が繰り出

した。

このフェスはコミセンの25周年を記念し、2003年からセンター外で行われてきた。コミセンまつりとしては今年で45回目。「和と輪でつながる祭りやまつり」をテーマにした。

22日は地元団体会や青年会がラーメン、焼きそばなどに腕を振った。二中生も大人に混じって、飲み物、食べ物、のりを出した。仲間と一緒に焼きそばを販売した2年・矢川莉紗さんは「お客さんが笑顔で買って来てうれしい。地域の一番という感じがする」、小林美香さんは「ちよっと緊張したけれど、地域の人と交流できて楽しい」。

客として立ち寄った日吉町の長井祐美さん（41）は「まちのにぎわいを感じていい。小中学生と触れ合う機会ができてうれしい。地域に住んでいる実感が湧く」と話した。

屋台の参加は5年ぶりという比角9区青年会は自慢の焼きそばに12人が呼吸を合わせた。「地域のにぎわいに貢献できると

ともに、青年会の団結力につながると代表の今井克弥さん（52）。工科大3年の今井隆誠さんは「二中時代に出店した懐かしさがある。自分のときよりも、中学生の参加が多く、地域に寄り添っていて、頼もしさを感じる」とイベントを楽しんだ。

佐藤徹副実行委員長（60）は「ステージ発表や屋台な

どに大勢から来場いたたい。新型コロナウイルス感染症が5類に移行して初めての開催で、従来のにぎわいが戻ってきたと話した。またフェス・ティバルでは、あいさつ標語、環境問題標語の表彰式もあった。応募数はあいさつが243点、環境が138点。最優秀賞は各2点で次の通り。あいさつ標語「おは

ようが 心をつなぐ、朝の声」比角小6年・永井里朱、「あいさつで、心のドアをノックしよう」二中1年・赤堀愛梨▽環境問題標語「でんきけず ぼくはおうちの、エコとうぼん」比角小1年・鳴海公介▽「こみじやない 生命を吹き込む リサイクル」二中2年・和田蒼涼